

1

広げよう 心の輪

富山県高岡市立伏木中学校

報告者 生徒会 岩坂吏得子

こんにちは、お元気ですか。

私たちは学校祭も終わり、毎日勉強に励んでいます。学校祭ではみなさんに送ってもらった資料からたくさんのことを調べ、学ぶことができました。学校に行けない子ども、働かなければならない子ども...世界には貧しい国がたくさんあり、とても驚きました。

私たちは「広げよう心の輪...希望に満ちた未来のために」というテーマのもとに、3年間国際協力について調べてきたことのまとめのテーマ室を作りました。そして、平和というものを改めて考えました。世界の実情を調べてきたけど、どこに住んでいたってどんな生活をしていったって、平和を願う心は同じだと思えます。私たちはテーマ室作りから学んだ助



け合いの心、平和を願う心などを忘れず生きていきたいと思えます。その心が広がるように私たちにできることをしていきたいです。ユニセフ募金もその一つです。みなさんもがんばってください。

2

ユニセフ協会を訪問して

茨城県新治郡千代田町立下稲吉中学校

報告者 生徒会 木村珠美 川井万幾

私たち下中生徒会はユニセフ協会を訪問してから、さまざまな活動を行いました。

まず、体育祭での募金活動です。

「ただ募金をしてもらうだけでは意味がない。募金の意味を知ってもらおう」と考えました。そこで町内のお店や学校に体育祭とユニセフ募金宣伝用のポスターを配り、体育祭当日は、ユニセフ協会からいただいたポスターを掲示しました。また、校内放送でも開発途上国の現状などを体育祭に来てくださった方々みなさんに伝えたり、募金についてわかりやすく書いてあるプリントを配付しました。

二つ目はインターネットを使って行った「こねっとセミナー」です。ウガンダ

の子どもたちに「将来の夢は何ですか」と下中から発すると「世界中が平和になってほしい」など、とても私たちと同じ歳の子もだと思えないほどの答えが返ってきて驚きました。私たちはこのセミナーを通して「自分たちの視野をもっと広げていかなければならない」と感じました。

下中はユニセフ活動が始まったばかりです。募金と言ってもまだピンとこない生徒もいるはず。だから、まず開発途上国について知り、ユニセフ活動に興味をもってもらうことが大切だと思いました。そして、ひ

とりひとりが世界に目を向け、世界が平和になるためにはどうすればよいかを考えてほしいと思います。



3

加賀温泉駅前でユニセフ募金

石川県加賀市立橋立中学校

報告者 生徒会

6月11日加賀温泉駅前でユニセフ募金活動を行いました。準備その他少しいへんだったけど、いい経験になりました。

その感想を送ります。

ユニセフ募金をして、いい経験になったと思っている。はじめは「少し嫌だ

な」と思っていたけど、知らない間に大きな声で、気持ちをこめて呼びかけることができた。

募金なんて簡単なことだとあまくみていたけど、実際は足やのどが痛くなってたいへんだった。しかし、また機会

があったらやりたいと思います。

始めたばかりの頃は、声も小さくてあまり集まらなかったけれど、だんだんと声が出てきて、募金もたくさん集まって、楽しかったです。

募金でお金を集めることは簡単だろうと思っていたけど、やってみるとす

ごくたいへんだった。お金を入れてくれる人がいると、自分のことのようにとてもうれしかった。

いい経験になった。千円札を入れてくれた人がいたので、びっくりした。ぼくもこういう大人になりたい。


4

発想は地球規模で、行動は足元から

三重県員弁郡藤原町立藤原中学校

報告者 宮城淳子先生

本校は「発想は地球規模で、行動は足元から」をキャッチフレーズに数年前からパピルス作りを通して環境問題を考え、パピルス和紙ではがき作り、また、サツマイモを作って町の文化祭や農業祭で販売してユニセフに募金をしてきました。

今年は修学旅行で東京のユニセフ協会を訪問し、ユニセフの活動内容や自分たちの寄付金がどのように使われているか

を教えていただきました。この訪問で世界の現状やユニセフ活動をさらに身近に感じ、訪問内容を壁新聞にして全校、また地域の方がたに向けて展示しました。

さらに、訪問報告会を兼ねた「ユニセフ学習会」を開き、第1部で修学旅行報告会を第2部で標題のテーマで自分たちに何ができるかについて討論会をしました。

全校生徒にユニセフで学んだことを伝え、資料を作ったり、経口補水療法を実



第1部「修学旅行報告会」の1コマです。第2部 討論会での1コマです。

経口補水療法を実演しています。

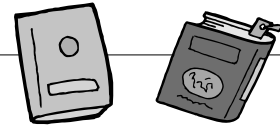
際にやってみせたりしてユニセフ募金活動を活発にしようと呼びかけました。第2部ではこれから私たちが身近なことから地球規模まで、どのようなことをしていくべきか共に考えました。今後も学習会を開いたり、日常のボランティア活動をさらに活発にして世界中の子どもたちが心豊かに暮らせる世界にする手助けができればと本校では考えています。

5

ユニセフ募金古本バザー

東京都大田区立東調布中学校

報告者 校長 加藤一俊 特活部 関根純一先生

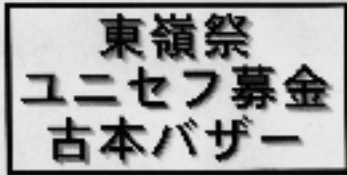


本校は昭和61年から地域との連携を考慮し、国語科教諭を中心に古本回収を始めました。最近生徒会の図書委員会を中心に活動しています。

具体的に方法を紹介します。

趣旨を説明して各家庭への呼びかけをします。

場所：東調布中学校・図書室（3F）
日時：平成11年10月30、31日 1冊10円から



古本収集にご協力を
電話：03-3711-1111（東調布中学校）

教員会は、ユニセフを通じて世界の恵まれない地域へと送られる本を
～呼びかけ用につくったちらし～

1 趣旨

「東嶺祭（文化祭）の時に、本年度もユニセフ募金古本バザーを行い、その収益金を世界の恵まれない国へ送ることになりました。つきましては、ご家庭で不要になった古本をご寄付ください」

2 古本寄付の方法

生徒を通じての直接の申込み
10月25日から28日まで 各教室
寄付の本の多いご家庭は、訪問回収も行います。

（訪問回収）

図書委員・教員により、リヤカーで申込みの家庭を訪問回収します。3日間リヤカーを使って地域を回るのもいい経験です。

3 販売



東嶺祭（文化祭）にて2日間PTAの協力も得て行います。10円、20円の低価格だから良く売れて、かなりの売り上げがあります。

4 収益金はユニセフ募金とします。

6

学校・PTA・地域の交流ふれ合い行事

ユニセフ資料とポスターの展示

東京都町田市立つくし野中学校 報告者 PTAフェスタ24実行委員会 新井洋子 小野朋子

フェスタ24実行委員会は学校・PTA・地域の交流ふれ合いの行事として、つくし野中学校においてパネル展示とバザーを行いました。

今年のテーマ「ボランティア - みんなの心が世界にとどく - 」と設定し、ユニセフの資料とポスターを工夫してパネル展示をしました。

ボランティア活動として使用済み切手、プリペイドカードなどを集めました。その収益の1部をバザーの収益とあわせて後日ユニセフ募金として送金しました。

さて、当日は好天に恵まれたこともあり、大勢の方々が来てくださり、パネル展示を見ていただきました。

子どもを持つ親として、また同じ子

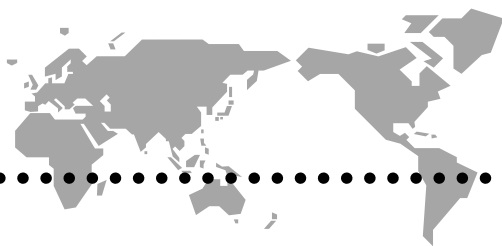
どもとして、他の国の働く、いえ働かされている子どもたちのポスターの中の子どもの瞳に何か訴えるものを感じてくださったようでした。

このようなパネル展示を通じて、みんなが自分のボランティア活動を知ったり、ボランティア活動に参加するきっかけとなってくれればいいなと思いました。





中学校



1

会社を作ってユニセフへ募金を

鹿児島県大口市立大口中学校

報告者 山本 教嗣 先生

「総合的な学習の時間」を利用して、大口中学校の3年生が「大中百貨店」という模擬会社を設立し、会社経営をおこないました。

このプログラムは、事業計画立案や株主総会、株式の発行による資金集めや市場調査、広告宣伝、商品仕入、バザー、益金の運用まで生徒の手で行われるものです。何もかも初めてのことで、戸惑いながらも、「社長」ら取締役となった生徒を中心に店舗で販売する商品や屋台用の飲食物を話し合いで決定し、仕入では値引きや料金支払方法などを自ら交渉するなど企業家精神を発揮することになりました。

4つの会社の中で「今堀商事」と「寺山商店」



南日本新聞
2000年11月24日

は、会社設立時点からユニセフへの募金を目標にし、ユニセフの活動を学んだ後、益金の中からユニセフに募金することを益金運用の学級会で決めました。

地域を巻き込み、大きな反響を得た「大中百貨店」でしたが、半年間苦労して取り組んだ益金の額は小さいものでした。しかし、生徒自らの力で得たお金は、募金よりも充実感があったと思います。

最後に生徒の感想としては、「商品の仕入交渉が大変だったが、みんなと協力できてうれしい。いい経験ができたので今後も大中百貨店を伝統として残してほしい」(取締役社長池崎欽太)などでした。

2

世界に愛を与え隊

岩手県花巻市立南城中学校

報告者 佐藤 敦士 先生

今年度の南中祭での学級展示は、2学年展示テーマを「ボランティアをしよう」とし、単なる調査展示ではなく、行動を通して何かを主張することとしました。そして2年1組はユニセフ募金に協力するかたちで「アフリカの子どもたちのために！」とテーマを決め、「世界に愛を与え隊」を編成しました。



アフリカにこだわった理由は、1年の地理の授業で見た映画「遠い夜明け(アパルトヘイトをあつかった映画)」などが生徒の念頭にあったようです。ただ、生徒ははじめ、アフリカの貧困や飢餓については知っていたものの、その原因や自分達に何ができるのかは分かっていないようでした。また、内戦や紛争の実態・地雷

などについては知りませんでした。

そこで、乳幼児死亡率を表す巨大な地球儀を作ったり、アフリカにとって飲料水がいかに貴重なものを学習したりしました。またアンゴラを例にとり、紛争と内戦の実態を調べ、紛争とはなにか、なぜ戦闘がおこなわれているのかについて学習したり、対人地雷の模型を展示したりしました。そして、スーパーやデパートの店頭での募金活動や校内募金活動をおこないました。アフリカの実態を知れば知るほど募金活動にも熱が入ってきたようでした。

このクラスはそのまま3年生へと進級します。この取り組みは卒業まで続けていきたいと思っています。

3 ジュースを一本我慢してユニセフ募金を

鹿児島県大島郡龍郷町立龍北中学校

報告者 校長 積山 泰夫 先生



本校では生徒会が中心となって、平成11年4月からユニセフ募金活動に取り組んでいます。同年4月20日の生徒朝会で、ポスター等の資料を使ってユニセフ募金についての説明をおこないました。

そして、その場で生徒会執行部のユニセフ募金への情熱と決意文が、全校生徒に拍手で承認され、7月から毎月始めの3

日間、2校時の休み時間に募金活動をおこなうことになりました。

合言葉は、「ジュースを一本我慢してユニセフ募金を！」です。生徒は手作りのユニセフ募金箱を手に、ジュースを我慢して募金の呼びかけをしています。

11月に開催される文化祭(学習発表会)でも、ユニセフ募金コーナーを設置して保護者や地域の人々にもユニセフ募金の広報活動を行い、募金の協力をいただいています。本校は生徒数約40名の小さな学校ですが、募金額は平成12年12月の募金で累計募金額は10万円を突破しました。

生徒会執行部も、3代目になりましたが、新たな世紀を迎えて、ユニセフ募金活動を本校の伝統的な活動にして、永遠

に引き継いでいこうと決意を新たにしております。目標は、10年後に50万円、20年後に100万円です。この大きな目標に向かって毎月着実な募金活動に取り組んでいこうと考えております。

「ジュースを一本我慢してユニセフ募金を！」



4 ボランティアショップでユニセフへ協力

岐阜県本巣郡糸貫町立糸貫中学校

報告者 福田 辰雄 先生

本校では、グローバルタイムという「総合的な学習の時間」を設定し、生徒が主体的に取り組む力を伸ばそうとしています。

2年4組は、リサイクル品を集めて販売するお店を開き、その売上金を募金するという「ボランティアショップ」に決定しました。生徒は売れそうなものを家から持ってきたり、先生に協力してもらったりして集めました。

生徒たちの努力によって、町で月一度行われる朝市や学園祭、地域のフリーマーケットなどに出店することができるよ

うになったのです。販売活動は月一度の割合で実施することができました。地域の人たちも生徒に暖かい声をかけてくださり、生徒たちも自信をつけていきました。

具体的な募金先については、「自分たちは恵まれた環境で学習することができるのに、世界にはまだ教育を受けることのできない子どもたちがたくさんいる。その子どもたちのために役立ててほしい」という理由からユニセフが選ばれました。

日曜日でもみんな前向きにボランティアショップに参加して売り上げを伸ばそうとがんばりました。みんなの考えは、不十分な環境の中で生活している子どもたちに、少しでも募金を役立ててほしいということでした。お店を出したり、調べ学習をしたりして、自分たちがどれだけ恵まれた環境の中にいるのかが分かりました。また、物を大切にしなければならぬこと、リサイクルに協力することの大切さも学びました。私たちの稼いだお金を開発途上国で苦しんでいる子どもたちのために大切に使ってください。

2年4組グローバルタイム
実行委員会実行委員長
白井佑介・2年4組一同

